

香川大学教育学部

附属坂出学園だより

第19号

2004.12



附属坂出小学校合唱クラブ音楽会出場（11月2日）
〈施：坂出東部小〉

目次

- ・研究開発全体像 P 2
- ・今、学園では P 3～6
幼・小・中・養
- ・大学から P 7
- ・PTA活動 P 8～9
- ・坂出学園2学期のあゆみ P 10

附属坂出学園の共同研究

—文部科学省研究開発第2年次—

研究開発課題

園児・児童・生徒の生活や学びの状況に適応した教育課程を創造するため、新しい教育制度「5・4制」を実施した場合の幼稚園と小学校及び小学校と中学校の接続の在り方並びに、幼・小・中一貫した教育課程、指導方法及び評価方法について

私たち、附属坂出学園は、昨年度から上記の研究開発課題で、幼稚園、小学校、中学校、養護学校の4校園が共同研究に取り組んでいます。最近、「6・3制」の弾力化、つまり、各区、市町村によって「5・4制」等を実施することが可能になるといった報道もありました。また、小学校1年生において、落ち着いて学習に取り組むことができない、友だちとの関係をうまく築くことができないといった「小1プロブレム」に対応するための幼稚園と小学校の接続の在り方も話題になっています。私たちの研究成果は、これからの教育制度や、教育方法に生かされるという期待も高まっています。

私たちは、この研究開発にあたり、以下の組織で研究を進めています。2学期は、後期実践があり、幼稚園の年長児が小学校で、小学校6年東組が中学校での生活・学習を行いました。

小・中の接続における研究

小・中部会（小・中教員）

後期実践内容

11月8日（月）～11月19日（金）までの2週間、小学校6年東組39名が、中学校に登校し、生活・学習をする。また、小学校6年西組は、同じ内容の学習を学級担任が行う。

このことを通して、研究開発課題についての検証を行う。

- 中学校教員（教科担任）の指導により、小学校6年生の内容の学習。
- 中学校1年生と合同での「まんががん」（総合的な学習の時間）活動。
- 係活動、お弁当、教室移動、部活等の中学校生活。

幼・小の接続における研究

幼・小部会（幼・小教員）
特別支援部会（幼・小・養教員）

後期実践内容

11月8日（月）～11月12日（金）までの1週間、幼稚園年長児34名が、小学校に登校し、小学校での学びを体験する。

このことを通して、研究開発課題についての検証を行う。

- 小学校教員と、幼稚園年長児担任のチーム・ティーチングにより、小学校の学習（国語・算数・生活・音楽・図工・体育・学活）につながる遊びを体験。
- 期間中2回の給食の実施。
- 小学校2年生と一緒に、分担された場所の清掃活動。
- 1・2・5年生との交流活動。



前期小学校体験（6月8日～11日）から5ヶ月。5歳児青組の子どもたち34名が、再び一週間小学校での生活を体験した。前期と同様、小学校の先生と一緒に、ことばや数に触れながらの活動・造形遊び・身体表現遊び・歌やリズム遊びなどを経験した。さらに、今回は前期の反省や保護者のニーズをできる限り考慮したプログラムになるよう、小学校の先生と相談を重ね、①給食・昼休み・掃除なども設定した小学校生活により近いプログラムの作成 ②多様な形で小学生との交流 ③机と椅子を使った環境の中での活動という新たな内容をプログラムに組み込んだ。

今回、給食を2回体験することになった子どもたち。配膳も自分たちでできることはやってみよう、係活動にも挑戦した。子どもたちは自分が何の係なのかをしっかりと覚えていて、事前に説明した通りにてきぱきと動き、初めてとは思えない程とてもスムーズにできた。献立の中にはもちろん好き嫌いがあったようだが、「私、かにたま嫌いやけどちょっと食べてみる」「ブロッコリー好かんけど食べれた」などの嬉しい声もたくさん聞くことができ、給食への不安が随分減ったように感じられた。



今回は1年生の他にも、来年最高学年になる5年生とも一緒に活動できた。体育館で、5年生のお兄さんやお姉さんと手をつないで風船ゲームをしたり、新聞乗りゲームではおんぶをしてもらったりといろいろなスキンシップを通してふれあいを楽しんだ。また、『探検ランド』と称したアスレチックゲームでも、難しいところは手助けしてくれた5年生。いつも幼稚園ではお世話をする立場なのに、今日はいろいろとお世話をしてもらえ、子どもたちはとても嬉しそうだった。最後に一緒に遊んでくれたペアの5年生の名札を頂き、大事そうに持って帰る子どもたち。来年、自分たちが入学した時に、一番頼りになる6年生を早くも知っているというのは、心強いことだと感謝している。また、昼休みに小学生と一緒に遊んでもらった子どもたちは、小学生のすごい所（大縄で8の字飛びができる・ボールを高く投げられる・一人でうんていが最後までできる等）を目にすることができ、自分も小学生になったらあんなふうになりたいと思ったようだ。掃除の時間には、2年東組のお兄さん、お姉さんにやり方を教えてもらいながら楽しく掃除をすることができた。このような多様な形で小学生との交流は、子どもたちに大きな刺激を与え、小学校に対する期待をさらに膨らませることになったのは明らかである。

机と椅子を使っの活動も、私の心配をよそに、子どもたちは45分間、誰一人うろろろするようなことはなく一生懸命に取り組むことができた。小学校の先生が教えてくれたことや私との約束（先生が話を始めたら椅子ごと前を向く・お友達が話を始めたらそちらを向いて聞く・席を立つ時は椅子をしまう等）を、5日間しっかりと守って生活した子どもたち。幼稚園に戻ってからも、こういった集団の中での



の基本的な姿勢は続いており、まとまりがでてきたように思う。

今後はこの2回の小学校体験の様子を分析し、教科に繋がる学びを系統的に取り入れるといったカリキュラムの見直しをしようと考えている。

前期と後期に渡り、小学校の先生方には、校内の環境整備・活動の準備・活動中の見取り等大変お世話になった。また、平日頃から幼稚園に足を運んでくださり、園児とかかわってくださることに対しても大変感謝しているとともに、今後も引き続きお願いしたいと思う。

子どもたちの思考力を高める日々の実践

本校では、子どもたちの学力の確かな育成，特に思考力の育成に焦点を当てた研究を続けています。本年度は，授業の中で，「思考力を高めるために，子どもたちの反応をどう引き出し，いかに組み立てて授業を構成するのか」を課題に研究授業をしています。ここに，これらの授業の一端をご紹介します。

1年 国語

おはなしをげきにてしょうかいしよう

『サラダでげんき』の劇をしよう」という目的意識をもって学習を展開する中で，子どもたちは，「だれがどんな順に出てくるのか」「どんなことを教えてくれたのか」を主体的に読み取っていきました。また，書かれていることを劇化しながら読み取っていくことによって，登場人物に同化し，その時の様子や気持ちを叙述と結んでより具体的に想像するとともに，表情や動き，話す速さや声の大きさ，間の取り方などに気を付けながら表現していきました。

また，物語に場面を書き加えるという活動では，「お母さんが早く元気になるものを入れよう」「その材料が好物である人が教えてくれることにしよう」と，教材文から読み取った「サラダに入れる材料と教えてくれる人との関係」を生かして登場人物を設定したり，登場人物にあった動きや様子を擬音語，擬態語を使って表現したりしていきました。



加えたい場面の設定を考える
子どもたち



6年 社会

明治の教育改革 - 寺子屋から学制へ -



学制発布の是非を話し合う



明治初頭に発布した意味を
見つめ直す

明治初頭，西讃一帯でたくさんの学校が焼き討ちにあいました。人々が学制に反対した理由を調べた子どもたちは，授業料が高く民の生活を圧迫すること，就学率が低いことに気がきました。そして，江戸時代で学んだ寺子屋のままでよかったのでは？という疑問が出てきました。

この疑問を「学制派」「寺子屋派」に分かれて話し合いました。互いに意見を述べ，質問する中で，西洋の学問の窓口となる学制，学問する人の裾野を広げた寺子屋という歴史的な意味が見えてきました。

さらに，対立する意見の中で生み出された「学制をもう少し後で出せばよい」という案を取り上げ，年表上で発布の時期をずらしながら，学制の意味を見つめ直しました。

そうすることで，「発布が遅れると西洋の進んだ技術や文化が学べず，工業が発達しない」というように，学制の影響を広く後世の出来事とも結び付けて考えることができました。

文部科学省研究開発第2年次

ようこそ、中学校へ！

— 附属坂出小学校6年生を迎えて（後期） —

附属坂出学園では、文部科学省より3年間の研究開発指定「5・4制の区切りに関する妥当性の検証」を受け、中学校を4年間とした場合の学びの構造についての研究を推進しております。

本年度は、小学6年生の学習内容を中学校のシステムで中学校教諭が指導した場合や、学校生活全般の適応について、引き続き調査してきました。11月8日から11月18日までの2週間、小学生が中学生として中学校で過ごした様子をお伝えします。



学習活動

- ・毎時間、先生が変わるのが新鮮だった!!
- ・教え方が違うので、自分にあった勉強方法が見つかった。
- ・小学校にない技術の授業でパソコンのマナー（ネチケット）を知りました。社会に出ても役立ちそう!
- ・教科ごとに宿題が出るから大変!



学校生活

- ・日直の仕事は、小学校とぜんぜん違う。きちんとするとやりがいがある。責任感がわいてきた。
- ・教室移動が結構あって、休み時間がほとんどない(T_T)入学したら3年間続くから頑張らなきゃ。
- ・中学生はあいさつが大きくてさわやかだった。

部活動・その他

- ・先輩に球を拾って渡したとき「ありがとう」と言ってくれてとてもうれしかった。
- ・お昼のお弁当に大好きなものがいっぱい入っていてうれしい。おいしい。おかあさん、ありがとう(^o^)
- ・最初は少し緊張したけど、だんだん慣れてきた。来年が楽しみだ。



小学校の保護者の皆様方には、授業参観の際には、お忙しい中多数ご参会くださり貴重なご意見等をいただき、誠にありがとうございました。

附属坂出小学校「南組」創設40周年・附属養護学校創立30周年記念の

附養ふれあい祭り開催

11月23日（火）に、附属養護学校にて附属坂出小学校「南組」創設40周年・附属養護学校創立30周年記念行事と附養ふれあい祭りが開催されました。当日は、好天に恵まれ保護者の方々・先輩の職員の方々・青年教室の方々・卒業生親の会・地域の方々・松韻会の方々・附属校や府中小学校の先生方や子どもたち・・・大勢の皆様に参加して頂きました。

記念行事の「平成附養獅子」、府中小学校との交流合唱や合奏等楽しく充実した記念の一日となりました。

40年前に「南組」として出発した時に支えて下さった皆様、これまで本校が発展するために陰の力として支援して下さいました地域の方々に感謝の気持ちをこめて発表しました。



高等部は「平成附養獅子」を華やかに披露しました



大学より木村学長様、加野学部長様をお迎えしました



平井障害児教育課長様、中井教育長様など多くの来賓にお出でいただきました



表彰を受けられた地域の団体の皆様です



小学部と府中小学校と交流合唱をしました



中学部は地域の方の協力を得てお祝いのもちつき大会をしました



附属中学校十川教頭先生、佐藤先生のミニライブで高等部のカラオケ大会は盛り上がりました

ユニークな連携を

香川大学長 木村 好次



日本中のことなのですが、このところ教育機関にとって、あまりいい話がありません。大学も法人になり、「効率化係数」によって、ほうっておけば年々予算が削られます。また一時ホットになった教員養成の再編問題も、いってみれば小康状態、遠からず再燃するでしょう。ほくの耳にも、「附属は大丈夫か」という声が聞こえてきます。

しかし、決して悲観はしていません。いうまでもないことですが、香川大学にとって、附属の5校1園は貴重な資産です。いまから作ろうとしてできるものではありません。この資産を有効に活用して、新しい発展を期したいのです。

附属学校園では、初等・中等教育に関して活発な研究が展開されており、「附属だからこそできた」という評価もいただいております。これは大学との連携の一つのかたちであり、とても頼もしく思っています。

しかし実はもう一つ、別の連携を考えてもらえないか、と、教育学部をお願いをしているところです。

そもそも大学にとって、附属は何のために存在するのか。第一の意味は、教員を目指す学生諸君の教育実習の場だということでしょう。実際に生徒諸君に接して教育を体験し、それを通じて一人前の先生に成長していく。

しかしそれだけではもったいない。附属を、大学の先生方の研究の場としても活用し、先端的な教育を開発してほしいのです。生徒さんを実験台にするということ人聞きは悪いですが、それは附属病院でも同じこと、「附属をもっているからこそできた」といわれるような、教育学部における研究成果をあげてほしいのです。

輝かしい歴史をもつ香川大学教育学部、そして附属の将来のために、いま一段のご努力、そしてご支援をお願いします。

附属学校園の中期目標・計画の達成に向けて

副学部長 岡田 泰士（附属学校園担当）



附属坂出学園を離れて早、半年が過ぎようとしています。現在、私は附属学校園担当副学部長として学部長を補佐する役割を仰せつかっています。立場上、学部、又は附属のいずれかのサイドに立って発想することは厳に戒めるべきことなのですが、附属学校に在任した6カ年の歳月は私を附属カラーで色濃く染め抜いており、未だ、附属サイドに立った発想がしばしば優勢に働いてしまいます。

さて、本年4月、国立大学が附属学校園も含め国立大学法人へと移行し、新たな出発をいたしました。ご案内の通り、国立大学法人は文部科学大臣の承認を得た各法人の中期目標・計画のもとづいて運営されます。そして、6年ごとに目標の達成状況について外部評価を受けるわけですが、学内向けとは言え早くもこの10月に本年度上半期における中期目標・計画の進捗状況について調査が実施されました。

国立大学法人香川大学は、附属学校に関する目標として、(1) 附属学校園の経営に関する目標、(2) 大学・学部との連携・協力の強化に関する目標、(3) 学校運営の改善に関する目標の3点をあげています。これらの内、附属学校園の設置目的から鑑み(2)の中期目標がきわめて重要であると考えます。この目標は、1) 大学、学部、研究科と連携し、附属学校園を初等中等教育の実践的教育・研究の場として充実させる。2) 質の高い実地教育(教育実習等)の場を提供することにより学生の教育実践能力を高める。といった2点からなっています。

これらの目標は「学部・附属共同研究機構」を設置して学部と附属学校園との実践的共同研究を推進することや附属学校園の実践的研究の成果を教員養成カリキュラムの編成に活かすことなどによって達成が図られます。したがって、それには学部教員は附属学校園の実践的教育研究の成果に、また、附属学校園教員は学部の理論的教育研究の成果に対する関心をさらに強め、お互いの研究成果を融合し教育や教員養成に関する研究の発展に資するべく学部と附属学校園がこれまでに増して一体感を深め共同研究を推進する必要があります。

法人化を迎え、「学部・附属学校園教員双方の一体感無くして学部と附属学校園の教育研究に発展は無し。」との思いを改めて強く抱きます。

特集 後援会費

保護者の方々から多く問い合わせがあります、後援会費の近年の活用状況を各校園にうかがいました。

中学校

今年から家庭科の専任教員授業がはじまり家庭科室の机や洗濯機などを購入しました
また、中学校は部活動などの派遣費用や研究会の資料制作費などに活用されています



大切な私達の寄付金が子ども達のために活用されています。

小学校

懐かしいアルミの給食器が白い器に変わりました
図書室の机を購入し図書室の充実もはかっています
保護者の会議などに利用する和室のふすまなどの補修をしました



幼稚園

園内の整備修繕費用に当てています（遊具の購入修繕、テント屋根の補修、保護者が行うメンテナンス時の費用など）その他、夕涼み会や運動会などの出し物にかかる経費などにも活用されています



後援会の活動がもっとスムーズにすすめられることと、より多くの方々（例えば同窓会）に寄付のお願いができればと考えています。園児、児童、生徒達が学園生活をより快適に、充実したものになれば幸いです。幼稚園では寄付金と実際の活動としてメンテナンスを続けています。今後とも後援会の活動にご理解、ご協力をお願いします。



幼稚園市ソフトボール優勝



幼稚園のみなさん

試合結果

- 中学校チーム / 予選 2 敗
- 小学校 A チーム / 予選 2 敗
- 小学校 B チーム / 予選 1 勝 1 敗
- 幼稚園 B チーム / 予選 2 敗
- **幼稚園 A チーム / 優勝**

11月23日に市PTAソフトボール大会が開催されました。

スポーツ!

今年は幼稚園が念願の優勝を果たし、おめでとうございます！
小学校と中学校は昨年の優勝カップを返還しただけで寂しい結果でした。
夕方からは60名余りが集って懇親会がにぎやかに行われました。
楽しい秋の『運動とお酒』の1日、来年もどんどんどご参加下さい。

土曜クラブ

今年度3回目となる土曜クラブを11月21日 日曜日に行いました。今回は去年と同じくJR 坂出駅前にて行われる光輝里（ひかり）フェスタに参加し、子どもたちの力作を坂出の夜の灯火にのばせと企画しました。また、日曜日の開催と決めたのは当日中学校の文化祭が催されておりイベント後、中学校に向いてもらいたかったからです。当日の参加者は保護者を含めて84名、2時間余りの短い時間でしたが、みんなユニークな作品が完成し、その後おやつのおげばんをいただき本当に芸術・食欲(?)の秋を過ごしました。



中学校より

今年中学校PTAは、文化祭に、合唱・ほっとサロン・フリーマーケット、で参加しました。合唱は、川田先生の熱心なご指導のもと、ゴスペルにも初挑戦。“天使にラブソング”“ビリーブ”を練習時間が少なかったにもかかわらず、本番では、やさしいハーモニーを奏でることができました。フリーマーケットでは、OBの保護者の皆さんの協力もあり、ほっとサロンのコーナーとともに、和やかな交流の場となりました。中学校は、子どもたちが少しずつ、親離れ、自立していく時期で、親子一緒のPTA活動は少なくなります。文化祭は、親子が一緒の空間で、感動や楽しさを共感できた貴重な時間となりました。



親子が一緒の空間で、感動

小学校より

学校安全委員会が今年度発足して、これまで計4回の委員会で、今年度の活動の方向性や、それに伴うアンケートの内容決め、まとめ方などを話し合い、会員の皆様には2回にわたってアンケートのご協力をお願いしました。委員会の合間には、学園だより18号「学校安全委員会ってなあに？」で安全委員会を紹介したり、「侵入者想定避難訓練レポート」をだしました。また、通学路を実際に歩いてもらい、同じ通学路を通る子どもたちを知ってもらおうと、地区別児童会への保護者参加を呼びかけました。今後は、アンケートの膨大な資料を各クラス安全委員で手分けしてまとめ、安全マップという形で新年度初めに会員の皆様のお手元に配布する予定です。これからも子どもたちの安全のため、皆様のご意見、ご協力をお願い致します。

幼稚園より

◎7月14日に恒例の夕涼み会が行われました。各クラスのイベントで、黄組のバザー、赤組の模擬店、青組のフリーマーケットがありました。園全体では保護者の友人たちによる歌のコンサート、園児たちによる歌、踊りがあり、最後に盛大に盆踊りを行い、楽しくどこか懐かしい夏の行事が締めくくられました。

◎11月3日・6日で園庭、園舎のお化粧直しを保護者で行いました。緑を基調にした園庭に心が和むと皆様に好評です。(写真)



養護学校より

「初めての現場実習を終えて」

親和会

大西 陽子 (附属養護学校高等部保護者)

高等部1年・秋。息子は11月1日から2週間、学校から2kmほど離れた事業所に通い、仕事をしてきました。もちろん初体験です。同じ養護学校に通う仲間でも、ひとりひとり「目標」が違ってきます。実習が始まる前には「現場実習激励会」、実習が終了すると「現場実習報告会」が開かれ、子どもはもちろん、親の意識も高まる2週間です。息子の目標は、「元気に最後までがんばる」。途中、疲れた顔をみせたものの、まずまずのがんばりをみせ、激励会で発表した目標を十分に達成したと思います。



理解ある職場の方に恵まれ、「仕事のできた」喜びを味わいながら、親も息子も、卒業後の生活を考える選択肢の一つになりました。

心配する親の立場を気遣って、働く様子を写メールで送ってくれた先生にも感謝です。

2週間、みんなで支えあってやり遂げた気持ちを忘れないようにしたいです。まさに「共働支援」ですね。

坂出学園2学期のあゆみ

小学校

読み聞かせ教室



附属坂出小学校では、毎月第2、第4水曜日の昼休みに保護者による「読み聞かせ教室」を行っています。

昨年度の3学期から始まり、現在は、11名のお母さん方がボランティアで読み聞かせをして下さっています。

地震想定避難訓練

9月3日、地震の発生を想定した避難訓練を行いました。坂出消防署の方にもお越し頂き、万一来備え真剣に避難ができました。3年生は救助袋を使った避難も体験しました。



ニュージーランド村へ遠足（11月5日）

バスに乗って四国ニュージーランド村へ遠足に行きました。

ニュージーランド村は動物がいっぱいいます。初めて見る牛や馬に驚いたり、怖がったり。たまたまこの日は、ニュージーランドの人が羊ショーをするのは、今年最後の日ということもあって、羊に餌をやらせてもらったりさわらせてくれたりと附属幼稚園の子どもたちに大サービスをしていただけました。

池のまわりを走る汽車に乗ったり、草スキーをしたり、長い長い滑り台を楽しんだり、あるいは大きなバツヤやココロギを捕まえたりと、それぞれが思い思いの秋に浸ることができた一日となりました。



幼稚園

養護学校

進路講演会（11月16日）

〈ふじみ園地域療育課コーディネーター 篠塚敦子先生〉
高等部中期現場実習報告会に続いて進路講演会がありました。コーディネーターの立場から地域療育等支援事業の概要や支援費の利用方法、また、日常の業務の様子などを丁寧に説明していただきました。



お話の中で特に強調されていたのは、情報提供の重要性についてです。家事援助サービスを受けるにしても、一緒に料理や掃除をすることで生活力をつけているケースもあるそうです。地域療育担当コーディネーターは篠塚さんのほかに県内に8人いらっしゃいます。積極的に相談をもちかいくことが大切です。

小学部修学旅行（10月14日～15日）

小学部3組の児童7名と、引率者4名で、神戸と大阪に行きました。神戸では、オリジナルTシャツ作りや、グリコピアのポッキー工場を見学しました。USJでは、ジョーズにびっくり！アニマルショーに大拍手！お天気にも恵まれ、子どもたちの笑顔が輝いていた二日間でした。



県入選作品（中学部陶芸作品）!!

10月23、24日に行われた坂出市教育文化祭に絵画、陶芸、家庭科の作品を出品しました。
(高松市美術館で12/23～26まで展示)



10月1日（金）の開学記念日に広島平和学習を行いました。今年度は、1～3年生までの道徳授業における平和学習のオプション的なかたちで希望者を募集し、100名余りの生徒が参加しました。語り部さんのお話を伺ったり、縦割りの班別学習などをする中で、広島における原爆の被害を肌で感じる事ができた一日になりました。

また、11月21日（日）に文化祭を行いました。午前中は「現代的課題領域【まんでがん】」の学習発表会。午後からは「附中元気村」と称し「Reborn～いやぁ ええなぁ附中生☆～」のテーマのもと、各クラスや個人の趣向を凝らしたステージ企画や、展示発表などが行われました。今年度はステージ企画が充実し、クラスごとの発表の上に個人やグループでの参加も増え、保護者の方々など観客数も去年をかなり上回り、盛況のうちに幕を閉じました。

広島原爆ドームを前に班別学習



附中元気村でのパフォーマンス

中学校

編集後記

この2学期もいろいろな行事がありました。坂出学園運動会、教育実習、文化祭、附属小学校「南組」創設40周年・附属養護学校創立30周年記念行事の開催等、忙しい中にも子どもたちの素晴らしい活躍の姿があり、感動を多く覚えました。様々な活動を通して、子どもたちの成長を願っています。

研究開発も2年目を迎え、今年も幼稚園児の小学校体験、小学生の中学校体験を行い、昨年度の研究成果や課題をふまえ、さらに研究が深まっています。皆様方のご協力、ご支援を今後ともよろしくお願い申し上げます。

発行年月日：2004年12月24日

発行事務局：附属坂出小学校内

編集担当者

塩田 知子（附属幼稚園）

西浦 雅弘 森田 浩文（附属坂出小学校）

山田 知志 十川 裕史（附属坂出中学校）

斎藤 恵子 岩本 豊（附属養護学校）